

学校名	甲州市立勝沼小学校	教科等	社会科
研究主題	学習者主体の授業づくりを通した、児童の資質・能力の育成 —「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら—		

1. 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

①ICT 環境を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

(ア) Figjam の活用

(イ) Google Chat™による情報の共有

(ウ) Google サイト™によるスタディ・ログの活用

②進捗シートを活用した自己調整学習の進め方

(ア) 学年に応じた進捗シートの作成

(イ) 進捗状況を把握し、学習進捗の見える化

(ウ) 探究のサイクルを意識した授業展開・掲示

③子供主体の授業づくり

(ア) 単元を見通せる単元計画

(イ) パフォーマンス課題を意識した単元計画

(ウ) 勝沼小「学びのスケール」の作成

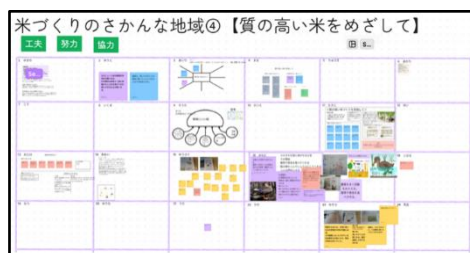


(2) 具体的な研究活動

① (ア) 単元全体を見通せるシート (過去の学びを振り返ることができるシート)。

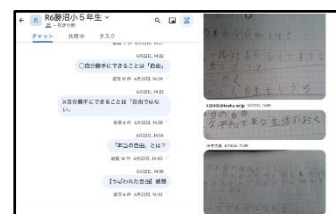
- ・他者参照できる1時間ごとのフレーム (自分の場所で「情報の収集」「整理・分析」「表現」。1時間で一つのまとめを作成)。

- ・他校との共有 (外国語科において、他校の児童と合同で一つの Figjam を使い、学校を越えての他者参照。他校の友達の動画を見たり、コメントを共有したりしている)。



Figjam の活用

(イ) さまざまな教科で Google Chat™を活用し、情報共有。意見の交流でも活用、時間短縮等の効率化を図る。



Google Chat™の活用

(ウ) 学年ごとに一つのサイトを作成 (学年サイトから、児童それぞれのサイトへリンク)。

- ・リンク集の活用 (学習に必要な Web サイトも学年サイトからリンク)。

- ・学習の記録としての活用 (授業内容をサイトに掲載。写真とともに、振り返り・学習感想を入力)。

- ・学級の掲示板や児童会活動での活用 (自主学習ノートをサイトに掲載。児童会活動のお知らせや取組の様子をサイトで紹介)。



Google サイト™の活用

- ② (ア) 単元計画と毎時間のポイントを明示。進捗状況を各自でチェック。教師のコメントや児童同士の相互参照による自己調整の活性化。
- (イ) 一覧表によるチェック (生成 AI を活用し、一覧化して表示できるよう、スクリプトを作成。→学習進捗の見える化)。

学年に応じた単元計画表

8時間目	ダブルクリック	7時間目	ダブルクリック	6時間目	ダブルクリック	5時間目	ダブルクリック
課題	明治政府が行ったことなかで、自分がさらに調べてみたいことを探求しよう	課題	明治政府が行ったことなかで、自分がさらに調べてみたいことを探求しよう	課題	明治政府が行ったことなかで、自分がさらに調べてみたいことを探求しよう	課題	明治政府が行ったことなかで、自分がさらに調べてみたいことを探求しよう
振り返り		振り返り		振り返り		振り返り	

- (ウ) 社会科を中心に探究のサイクルを意識した授業を展開。児童も本時の課題に見通しが持てたり、自走したりするための一つの手立てとなっている。単元全体も大きな探究のサイクルを意識して学習を進めている。

パフォーマンス課題の例

- ③ (ア) 児童それぞれにシートを作成し、進捗状況を各自でチェック。また、シートに単元計画と毎時間のめあてを明示することで、単元を見通しながら学習を進めることができている。
- (イ) パフォーマンス課題を単元の終末に設定。→見方・考え方の意識、表現力の獲得など、資質・能力の育成に向けて取組を進めている。前向きに取り組んでいる児童が多い。
- (ウ) 「どこまで児童に学習を委ねるか」という基準となる「学びのスケール」を作成し、活用。

パフォーマンステスト

自分が「つらさ」を乗り越えて、
勝沼ぶどう郷の発展を願って・・・自分なら・・・
どのように受け継いでいくか？
どのようなことを変えていく必要があるか？

勝沼小「学びのスケール」					
	1	2	3	4	5
課題	教師が課題を決定	ほぼ教師が課題を決定	子供が選択課題から選べる	子供が選択課題をつくり、選ぶ	子供が自分で課題を決定
過程	教師が意識して過程を回す	単元計画を参考に、子供が過程のどこかを意識する	単元計画を参考に、過程の一部を子供が回す	ほぼ子供の意思決定で回す	すべてを子供の意思決定で回す
形態	教師が誰と学ぶかを決める	教師が範囲を定めて誰と学ぶかを決める	過程の一部で誰と学ぶかを子供が決める	過程のほぼすべてで誰と学ぶかを子供が決める	すべての過程で誰と学ぶかを子供が決める

2. 研究の成果と課題 (○成果 ▲課題)

- ①○ICT 環境を活用し、自分のペースで授業を進めることができている。ツールを用いた他者参照をする中で、協働的に学ぶ姿が見られた。
- ▲ICT 端末の活用スキルに差が出ている場面が見られた。また、学年ごとにどこまでのスキルを獲得させていくべきか、精査していく必要がある。
- ②○進捗シートを活用することで、児童の様子を把握することができた。また、単元計画を示すことにより、見通しを持って学習したり、学び方を調整したりする姿が見られた。
- ▲児童にとって使いやすいもの、教師側が把握しやすいシート等、より良いものを今後も考えていきたい。また学年に応じたシート等を考えていきたい。
- ③○「学びのスケール」を基準とし、「委ねる」部分を意識することで、子供主体の授業に近付けることができた。また、単元計画を子供と共有することで、見通しを持ちながら主体的に学習を進めることができた。
- ▲児童に「委ねる」部分を更に精査する中で、「資質・能力の育成」につなげられるよう、今後も研究を続けていきたい。

「子供主体の授業づくり」の事例について

【小学校・4年生・社会科・「昔から今へと続く町づくり」
（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実）

1 本事例のポイント

- ①進捗シートを活用した自己調整学習（学年に応じた進捗シート・探究のサイクルを意識した授業展開）
- ②子供主体の授業づくり（単元を見通せる「単元計画」・パフォーマンス課題・勝沼小「学びのスケール」）

2 本事例の概要

第4学年「昔から今へと続く町づくり」の実践（本時は9時間中の第7時「駅を作ろうと思った理由」について考える場面）

本時の流れと指導上の留意点

【単元を貫く問い】勝沼ぶどう郷駅の発展を願って…自分ならどのように受け継いでいくか？
どのように関わっていくか？

本時の課題 鉄道開通から、10年後…なぜ人々は勝沼ぶどう郷駅を作ろうと思ったのだろう？

【見方】「時期や時間の変化」【考え方】「関連付ける」

情報の収集

- ・勝沼地域の人たちは鉄道開通に反対であったことを振り返る。
- ・見方の「時期や時間の変化」を意識しながら、勝沼に駅を作ろうと思った地域の人々の願いの変化や、作るまでの苦労や努力を、資料を使って調べる。

【自走するための手立て】Figjamで学習状況を把握し、情報を絞ったり、協働的な学びを深めるために他者参照の視点を持たせるような支援をする。

整理・分析

- ・情報を基に、なぜ人々が勝沼に駅を作る方向へ変化したのかを整理・分析する。

まとめ・表現

- ・課題に対して分かったことを、Figjam内のまとめのセクションにまとめる。
- ・まとめと振り返りの意味の違いを意識させ、振り返りでは、授業を通して感じたことや自分の気持ちを入力し、単元を貫く問いに向かっていけるようにする。

	1	2	3	4	5
課題	課題を設定し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。
過程	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。
結果	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。	単元計画を作成し、単元を見通す。

Figjamでの児童への提示



本時の成果（○）と課題（▲）

- 「単元を貫く問い」を設定したり、単元計画を示したりすることにより、単元全体を見通し、大きな「探究のサイクル」を意識しながら、学習を進めることができた。
- 生成AIを使った資料や教師の支援により、児童が自走する姿や協働的に学ぶ姿が見られた。
- ▲終末において、教師側でまとめる場面があった。まとめについても子供に委ねる工夫について研究を深めたい。

【思判表①】

「時期や時間の変化」の中で、鉄道に対する人々の願いが変化したことに着目し、資料で調べたり、地域の発展に尽くした先人の業績や具体的事例を考えたりして、Figjamを用い、表現している。

本時の評価

「子供主体の授業づくり」の事例について

【小学校・6年生・社会科・「明治の新しい国づくり」 （「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実）

1 本事例のポイント

- ①進捗シートを活用した自己調整学習（学年に応じた進捗シート・探究のサイクルを意識した授業展開）
- ②子供主体の授業づくり（単元を見通せる「単元計画」・パフォーマンス課題・勝沼小「学びのスケール」）

2 本事例の概要

第6学年「明治の新しい国づくり」の実践（本時は8時間中の第6時「明治時代になり、人々の暮らしやまちの様子、考え方がどのように変わったのか」を調べる場面）

本時の流れと指導上の留意点

【目標】 人々の暮らしやまちの様子の変化を調べ、新しい時代になって西洋風の文化や考え方が取り入れられたことを捉える。

【見方】「世の中の様子」【考え方】「変化」

情報の収集

- ・明治時代の初め頃の東京の様子絵から、まちなみや人々の様子の変化を読み取れるようにする。
- ・学校制度や暮らしにどのような変化があったのか、絵画や年表から調べられるようにする。

整理・分析

【自走するための手立て】 衣食住、交通、教育等児童が着目できていない点について、問いかける。

まとめ・表現

- ・衣食住、交通、教育等様々な観点から情報を集められているか。

ふり回り

- ・江戸時代との比較から集めた世の中の変化について、西洋風の文化や考え方が取り入れられていることに気付けるようにする。
- ・課題に対して分かったことをスプレッドシートにまとめる。自分の考えを友達に伝え、考えを深められるようにする。

勝沼小「学びのスケール」

	1	2	3	4	5
課題	課題が決定	課題が決定	課題が決定	課題が決定	課題が決定
過程	課題が決定	課題が決定	課題が決定	課題が決定	課題が決定
結果	課題が決定	課題が決定	課題が決定	課題が決定	課題が決定

本時の評価

【知識・技能①②】

明治時代に西洋の文化の影響によって、人々の生活や考え方が変化したことを理解している。（Figjamの記述・スプレッドシートの記述）

クラスルームでの児童への提示



10月30日（最終編集：18:01）

8 明治の新しい国づくり 第6時

「課題」明治時代になって人々の暮らしや考え方はどのように変わったのか調べよう
見方「世の中の様子」 考え方「変化」

〈情報の収集〉教科書P180,181

- ・江戸時代と比べて暮らしの様子はどのように変わったか？
- ・江戸時代と比べて考え方や学校の様子はどのように変わったか？

「課題に対しての達成度」

- S 明治時代になって暮らしや学校の様子がどのように変わっていったかを説明でき、新たな問いをもつことができる
- A 明治時代になって暮らしや学校の様子がどのように変わっていったかを説明することができる
- B 明治時代になって暮らしや学校の様子がどのように変わっていったのがわかる
- 「学習する態度」
- S 自分で課題を解決することができ、自分の考えを友達に伝えることができた
- A 自分で課題を解決することができた
- B 友達の学習を参考にしながら課題を解決できた

本時の成果（○）と課題（▲）

- 1人1台端末を活用し他者参照だけでなく、黒板も使って、それぞれの意見を交流する等、協働的に学ぶ場面を設定することができた。
- 動画やクラスルームでの指示、Figjam上の資料等により、児童が自走することができていた。
- ▲ 社会科の「見方・考え方」を働かせるような課題の設定や教師の支援について、更に研究を深め、児童の資質・能力の育成につなげていきたい。

「子供主体の授業づくり」の事例について

【ICT環境を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】

1 本事例のポイント

- いつでもどこでも誰とでも見ることができる環境設定
- 学年、学級、単元を越えた情報共有

2 本事例の概要

①Googleサイト™の活用

○学習ログとしての活用

- 授業内容をサイトに掲載。写真等に添えて、振り返り・学習感想を入力。

○学級の掲示板や児童会活動での活用

- 自主学習ノートをサイトに掲載。児童会活動のお知らせや取組の様子をサイトで紹介。

②Google Chat™の活用

○Google Chat™による情報の共有

- 様々な教科でGoogle Chat™を活用し、情報共有。
- 意見の交流もGoogle Chat™を活用し、時間短縮等の効率化。

③Figjamの活用

○単元全体を見通せるシート

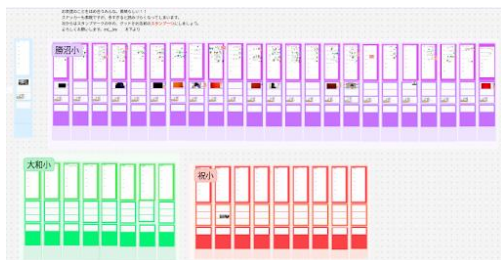
- 一つの教科で一つのFigjamを使用することで、過去の内容を振り返ることができる。

○他者参照できる1時間ごとのフレーム

- 24分割し、自分の場所で「情報の収集」「整理・分析」。1時間で一つのまとめを作成。

○他教科での活用（例：外国語科）

- 他校の児童と合同で一つのFigjamを使用し、学校間を越えての他者参照を実施。他校の友達の動画を見たり、コメントを共有したりすることができている。



米づくりのさかんな地域④【質の高い米をめざして】

